

マクロ経済学 基礎の基礎 1

古典派とケインズ派

法政大学 入門ゼミ 馬場敏幸

参考資料:石川『単位が取れるマクロ経済学ノート』講談社

古典派(アダム・スミス=経済学の父)

「経済は市場の自由な取引に任せておけば望ましい状態になる」

つまり、

市場経済主義

(政府でなく市場の自発取引で解決)

なぜ？

価格調整により売残や物不足など不便状態が解消されるから

用語

- セイの法則:「供給は自ら需要を創り出す」
- 超過需要:需要量 > 供給量
- 超過供給:需要量 < 供給量
- 労働市場の価格 = 賃金率 (時給、月給など時間あたりの賃金)
- 有効需要の原理:「有効需要の大きさが生産量、雇用量を決定」
- 物価(賃金率)の下方硬直性:物価(賃金率)が下がりにくい性質
硬直性 ←→ 伸縮性

古典派の考え 供給量が多い場合

企業が売り手(供給者)、家計が買い手(需要者)のある商品の市場

供給量は合計1000個、需要量は800個

どんな状態？

→ 超過供給

どうなる？

→ 200個売れ残る

古典派はどう考える？

売れ残りがある場合は価格がどんどん下がる(価格は伸縮性がある)

価格が下がればたくさん買ってもらえる → 売れ残りは解消

企業は売りたい量を全て売り、家計は買いたい量を全て買える

市場で自然と社会的に望ましい状態に

古典派の考え 供給量が多い場合

ある市場において超過供給が生じている場合、

価格が下落することによって

超過供給は？

解消し、

需要量と供給量は？

等しくなる

つまり生産し供給さえすれば必ず買ってもらえる

売れ残りは価格の下落によって解消

→ **セイの法則**(供給は自ら需要を創り出す)

古典派の考え 需要量が多い場合

企業が売り手(供給者)、家計が買い手(需要者)のある商品の市場

供給量は合計1000個、需要量は1200個

どんな状態？

→ 超過需要

どうなる？

→ 物不足で価格が上がる

古典派はどう考える？

売れ残りがある場合は価格がどんどん下がる

価格上昇で需要量は減る → 物不足は解消

企業は売りたい量を全て売り、家計は買いたい量を全て買える

市場で自然と社会的に望ましい状態に

古典派の考え 需要量が多い場合

ある市場において超過需要が生じている場合、

価格が上昇することによって

需要量は？

減少し、

超過需要は？

解消する

需要量と供給量は？

ここでも等しくなる

古典派の考え 労働市場

労働サービスでは、家計が供給者、企業が需要者

企業の労働需要量800人、労働供給量1000人(不景気)

どんな状態？

→ 超過供給 つまり？

→ 200人の失業が発生する

どうなる？

→ 労働市場で価格(=賃金率)が下がる

→ 賃金率が下がると需要量が増える

→ 働きたい労働者は全員就職することが出来る

→ 社会的に望ましい状態に(失業が無くなった)

大恐慌 と 古典派の信用失墜

1929年 ニューヨークの株価大暴落を発端として**世界大恐慌**
モノは売れず、**大量失業が発生**(4~5人に一人が失業、20%)

どうなってる？

市場に任せておけば解決できるのでは？

失業が無くなるまで賃金率下落で解決できるのでは？

でも**大量失業は継続**

古典派の考えは信用を失う(当時は古典派とは呼ばれていなかったが)

ケインズ(1936)『雇用・利子および貨幣の一般理論』

それまでの正統派経済学を古典派と呼び、異なる考えを披露

ケインズの考え

古典派は大量失業発生では
失業が無くなるまで賃金率が低下し失業は解消
でもケインズは
賃金率は下落しないと考える(賃金率の下方硬直性)
だから失業は継続する

失業を解消するためにはモノ・サービスの需要を増やすべき

モノやサービスの需要 増
→企業の生産量 増
→企業の労働需要量 増
→ 失業解消

10

ケインズの考え 有効需要の原理

有効需要の原理とは

「需要の大きさによって生産量や雇用量が決まる」

世界大恐慌のような深刻な不況では需要はなかなか増えない

そこで、

政府が公共工事などの政府支出によって需要を増やせばよい

11

ケイジアン(ケインズ派)の物価の下方硬直性

賃金率だけでなく物価も下がりにくいのでは(物価の下方硬直性)
つまり、物価一定を前提として理論展開

ある商品Aの市場で好況時には需要量が1000個
不況で需要量が800個
200個の超過供給で売れ残り発生

企業は200個売れ残るとわかっていて1000個生産しても仕方ない
生産量(供給量)を800個に減らす
その分の工場・従業員は不要
リストラ(工場閉鎖・人員削減)
失業発生

従って失業解消のため政府支出で生産物への需要を増やす

12

用語復習

- セイの法則:「供給は自ら需要を創り出す」
- 超過需要:需要量 > 供給量
- 超過供給:需要量 < 供給量
- 労働市場の価格 = 賃金率 (時給、月給など時間あたりの賃金)
- 有効需要の原理:「有効需要の大きさが生産量、雇用量を決定」
- 物価(賃金率)の下方硬直性:物価(賃金率)が下がりにくい性質
硬直性 ←→ 伸縮性

13